保育計画成果報告書

| | |
|---|---|
| 法人名 | スターツケアサービス株式会社 |
| 施設名 | 幕張本郷きらきら保育園 |
| 報告者（役職） | 森井　昭恵　（園長） |
| 住所・連絡先 | 千葉県千葉市花見川区幕張本郷５－８－８ |
| | ☎　０４３－３５０－０４１５ |
| | E-mail　kirakira-makuharihonngou@starts.co.jp |

〇タイトル

| |
|---|
| おはなし　だいすき！ |

〇主な助成備品

| |
|---|
| 絵本（約３００冊）大型絵本（５冊）たたみ様ウレタンマット・パネルシアター台など |

**１．実施した保育計画策定の目的**

「あそび」は、子どもが将来社会を生きていく上で必要な力を獲得するために不可欠なものです。その中でも絵本は想像力を育み、世界を広げ新しいものを作り出し、登場人物の気持ちになることで好奇心を高め生活習慣を知ることもできます。多くの絵本の中から自分で「選ぶ」という経験は、本園の保育目標の一つである「自ら考え、行動できる子に」を達成するためにも重要なことの一つです。また、親や保育者などの「安心できる大人」から絵本を読んでもらうという経験は、心の安定をもたらし子どもの成長に必要な愛着関係の形成の一助にもなると考えます。読み聞かせをする大人にとっても、子どもと楽しい時間を共有することで「心のふれ合い」を実感することが容易にできます。

昨今、親子間でのコミュニケーション力の低下が伝えられていますが、我が子とどう時間を過ごしたら良いのかわからない保護者も増えてきているようです。そんな時、絵本はコミュニケーションをとるのに力を貸してくれます。長い時間や大変な準備や素晴らしい技術、大きなスペースがなくても、サッと取り出せば色々な世界に親子で飛んでいく事ができ、コミュニケーションのきっかけにもなります。もちろん「読み聞かせ」を正しくしようとすればかなりの勉強と修練が必要になりますが、親子でする時には「読んであげたい」気持ちさえあれば十分だと感じます。

保護者が目にするであろう育児書の多くには「絵本は大切です」と書かれています。しかし、産休・育休を終え「働く母」や「働く父」になりたての保護者に絵本を読む時間が確保できるかと考えた時、難しく感じてしまう方が多いのではないでしょうか。やりたいけれどできない、この事が続くのは育児にプラスにはなりません。そこで、開園当初から親子の時間を大切にしてきた本園では、「絵本コーナー」を作り、園内で

くつろぎながら「心のふれあい」が経験できるコーナーを設置したいと考えました。

また、本園がある幕張本郷地区には他地域のように公民館や児童館、図書館のように気軽に親子が集える場所がほとんどありません。公園の数、質をとっても子育て中の親子にとって恵まれているとは思えません。開園間もない為、すぐには無理であっても将来的には地域の親子を招き「おはなし会」を催すなど、地域に貢献したいと考えたことも計画策定の一つになっています。

我が子が選んでくれた絵本を、我が子を膝にのせあるいは寄り添い、心を通わせ思いを共有する「かけがえのない時間」を提供したいと願っています。

## ２．具体的な実施内容

園舎１階廊下の角スペースに「未満児用絵本コーナー」を作成しました。当初、各保育室内に計画していましたが、子どもたちの生活の様子の変化にあわせ、廊下に設置することに変更しました。ここには、ウォールポケット状の絵本ラックがあり担当職員が季節・育ち・興味などを鑑み「今、読んで欲しい」と願う本が置かれています。

ポケット部分には、入れ替え可能な写真入れがあり絵本の表紙を撮った物が入れてあり、絵本を戻すことが容易にできます。床には、畳用のウレタンマットを敷き、子どものサイズに合わせた牛乳パックで作ったベンチが置かれています（写真１・２）。子どもたちの「好きな絵本は何度でも、いつでもみたい」という思いに配慮し、ラックの脇には、季節が過ぎてしまったなどの理由で担当職員の選定から外れた絵本が並んでいます。

（写真１）

（写真２）

２階廊下スペースには「以上児用絵本コーナー」があります。こちらには本棚やベンチ下が本入れになっているものなどがあります。また、未満児同様ウレタンマットが敷かれており、足を伸ばしてくつろげるようローソファーも作成しました。園庭や散歩先で不思議に思ったことやみつけた植物を調べられるよう図鑑も置いてあります。子どもの育ちや興味に合わせ、少し長いお話のものがたり絵本や英語の絵本などもあります（写真３）。

（写真３）

どちらのコーナーも「絵本コーナー」として以外に、保育参加の一部であるお店屋さんごっこの銀行になったり、「地域交流」では季節の行事の会の後、１階コーナーで簡単な制作をすることにも使用しています（写真４・５）。

（写真４）

（写真５）

大型絵本やパネルシアターは、季節の行事や今年度から始めた「地域交流」で使用しています。

## ３．その成果と評価

絵本などの読み聞かせはすぐに結果があらわれるものではありませんが、子どもや保護者に少しずつ変化が現れてきています。

雨の日や午睡前、おやつ後など保育中に担任が「読み聞かせ」を行うことをきっかけに子どもたちの中に馴染んでいきました。一方、１階２階どちらのコーナーも嬉しそうにしている子どもの傍らで少し照れたり困った表情をする保護者の姿がみられました。横を通った保育者がさりげない言葉をかけるなどしながら時間の経過とともに保護者の表情も緩んでいきました。我が子を膝にのせ、淡々と絵本を読んだり話しかけながら読んだり形は様々ですが、なんともいえない暖かい空気が作られておりその中にいる子どもはとても幸せそうな満たされた表情をしています（写真６・７）。中に

は父親の姿もあり嬉しく思っています。

（写真６）

（写真７）

どちらのコーナーも「選びやすく、片付けやすい」ことも考慮して設置いたしました。２階コーナーでは、年長児が時々絵本の整理をしてくれることもあります。

１階コーナーでは１歳児クラスの子どもは好きな絵本を読んでもらった後は元あったところに戻そうとし「上手ね、ありがとう」と声を掛けられ満足そうに降園していく子どもが増えてきました。０歳児クラスでも大きい子の真似をしようとし大人の力を借りながらも片付けられたことに満足している様子が伺えます。

| 月 | １階コーナー<br>（一日平均） | ２階コーナー<br>（一日平均） |
|---|---|---|
| 平成２６年　２月 | 約　７組の親子 | 約　９組の親子 |
| 平成２６年　３・　４月 | 約　９組の親子 | 約１０組の親子 |
| 平成２６年　５・　６月 | 約１３組の親子 | 約１０組の親子 |
| 平成２６年　７・　８月 | 約　９組の親子 | 約　８組の親子 |
| 平成２６年　９・１０月 | 約１３組の親子 | 約１２組の親子 |
| 平成２６年１１・１２月 | 約１４組の親子 | 約　９組の親子 |
| 平成２７年　１・　２月 | 約１６組の親子 | 約１０組の親子 |

設置から１年と少しが経過しましたが、今では毎日の日課になっている親子が多くいます。気まぐれで子どもがコーナーを通過してしまうと「今日は読まないの～？」と残念そうに声を掛けている保護者の姿もみられます。絵本に対しても興味が深くなったからか、未満児の子どもが「キレテル～」と破れた絵本を悲しそうな顔で持ってくることもあります。「絵本の病院で直してくるね」と話すとホッとした表情で保護者のもとに戻っていった事もありました。目には見えない心の育ちを実感した瞬間です。地域の方への貢献では、まだまだ不十分ですが行事後に親子での制作体験をしていた

だきました。親子で作った笹飾りやクリスマス飾りなどをお持ち帰りいただくことで日本の文化を伝えるだけでなく親子のコミュニケーションも提供でき、園への理解もしていただけたのではないかと思っています。

## ４．今後の課題と展望

毎日日課になっている親子がいる一方、当たり前に素通りしていく親子もいます。コーナーにはいるけれど保護者は大人同士の話をしてしまい子どもが一人で絵本をみている姿も見えてきました。どの姿も子どもが求めた時には機会を提供して欲しいと願いますが、毎日の忙しい生活の中難しい面があることも理解でき、対応策の答えは見つかっていません。

絵本に関しては、子どもたちが「選ぶ」ことを充実させる為にはまだまだ不足しており増やしていかなければなりません。年間を通して計画的に少しずつ購入していく予定です。また、職員の読み聞かせや提供する絵本の選定の仕方など絵本に対する知識も向上していく必要があります。園内研修などで取り入れていく予定ですが、その手掛かりとして地域の「おはなし会」の方を月１回お招きすることになりました。来年度は以上児を対象にクラス毎にお話の時間を持ちます。読み聞かせや素話、わらべうたなどをしていただく予定です（年長児は卒園前に少しでも、と願い２月から始めています。写真８）。将来的には職員に対する勉強会もお願いしたいと考えています。

（写真８）

今年度から始めた「地域交流」は、十分なものができたとはいえません。職員の体制や環境も鑑み、園庭開放の仕方、多く参加していただくための環境設定の工夫、内容や保育体制や園内に入っていただく為のセキュリティや環境設定、内容・回数の再考など大きな課題だと考えています。

地域に根付いた保育園作りを目指す本園としては、お預かりしている子どもたち・保護者はもちろんのこと、地域の方々にも安心して集っていただける環境作りを見つけ続けていきたいと考えています。

以上